

大学の世界展開力強化事業
令和2（2020）年度採択
令和5(2023)年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
令和6(2024)年3月8日
独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2020年度に採択された8件のプログラムについて

- ① 交流プログラムの内容
- ② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及
- ⑤ 特記すべき成果
- ⑥ オンラインを活用した工夫・改善点

上記の6観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

フォローアップの総括

2022年度は事業3年目となり、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航・入国制限が解除されつつある中で、事業1、2年目で整備した留学環境等を展開し、実渡航及びオンラインを併用したハイブリッド型にて長期交流を含めた交流を推進し、目標の達成に向けて努力していることが見受けられた。

事業全体の交流学生数については、派遣人数および受入人数については順調に伸び目標値を上回っていることから、支援開始4年目(2023年度)以降も取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況 ①交流プログラムの内容

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

ナイロビ大学生が、本学で実施している高度感染症実習に参加し、バイオセーフティーレベル(BSL)-2実験室、BSL-2動物実験室、BSL-3実験室を利用する体験は、参加学生にとって貴重な経験となった。また、受入・派遣ともに学外の関係機関（長崎大学熱帯医学研究所ケニア拠点、KEMRI等）の視察も加えることにより、獣医師としての視野を広げることができた。

○秋田大学、九州大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

秋田大学は「海外資源フィールドワーク」、「ショートステイプログラム」、「日本語・英語語学研修」、「バーチャルトラベリングクラス」、「資源情報学の基礎」、「日阿協働研修1」の6プログラムを2022年度に提供した。これらのプログラムは資源開発を広範に学ぶ機会を提供し、スマートマイニングへの理解を深めるための重要な研修であり、新型コロナウイルスによる日阿両国間の物理的な渡航が困難な状況の中であっても、オンライン講義やハイブリッド講義を組み合わせることにより、質の高い講義を提供することができた。

①交流プログラムの内容

○京都大学、東京外国語大学 タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

日本・アフリカの大学間のマッチングのため、日本の大学との連携を図る南アフリカの関連組織に対し京都大学が積極的に支援を行い、ツワネ工科大学が2022年10月に日本を訪問した際に、京都大学が仲介しながら京都先端科学大学、神戸情報大学院大学、芝浦工業大学の訪問をサポートし、後日オンラインで京都精華大学とのミーティングも実施した。また、2022年7月には、在日南アフリカ共和国大使館 科学イノベーション教育担当公使、9月には駐日南アフリカ共和国大使、10月にはプレトリア大学学長一行が京都大学の執行部を表敬訪問し、2国間における大学間交流の促進について議論した。他にも、アフリカの各種教育研究機関(ケニア中央医療研究所など)からの本学訪問、在外日本大使館への訪問を行い、新たな組織的・人的交流を深めるなど、事業を実施していない大学との連携体制を構築するとともに、情報交換と大学間交流をさらに促進できるようになった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

アフリカの6大学がプログラムに参加していることから、相互の意思疎通を図って魅力的なプログラムを実施するために、あらゆる情報を相互に公開して協議する定期的な会議を開催している。さらに実渡航の開始により6大学の教員を招聘し、本プログラムのこれまでの進捗状況と今後2年間の運営方針について対面で協議した。

共同開講の必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用い、教育の質保証を伴った成績評価システムで適切にCertificateが授与される点がアフリカ側に好評であった。また、派遣学生に対する「臨地研究」および「ワークショップ」を実施し、参加学生のSDGs貢献人材としての主観的能力の向上をはかった。

北海道大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

本事業ではルーブリックを用いるコンピテンシー評価を取り入れており、参加学生が自覚的に学修成果を伸ばすことが可能である。オンラインで実施した2021年度のプログラム実施後のコンピテンシー評価に比べると、実渡航を伴うプログラムでは、特に「課題解決能力」が顕著に上昇し、語学に関してはザンビア大学学生的能力(日本語)がプログラム実施後に顕著に伸びたなど、実渡航の教育効果を視覚的に確認できた。

長崎大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

日ケ運営委員会によりプログラムの評価を行い、計画の合意に至った。また、ケニア中央医学研究所大学院とのダブルディグリープログラム設置に向けた協議を開始するとともに、アフリカ長崎アルムナイネットワーク設立のための準備を開始した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

本プログラムで初となる派遣学生の実渡航を開始するにあたり、教員をガーナ大学に派遣し、受入れ状況を調査した。また、派遣に先立って「臨地研究」および「ワークショップ」を開講するとともに、交換留学生向けオリエンテーションにも参加させて安全管理および黄熱病ワクチン接種について対応した。

一方、受入学生に関しては、一斉に同じ飛行機で来日する日程として、「Africa Week」の実施とともに同一の日程とプログラムで対応し、特に短期受入学生には同一プログラムの後に10日間ほど研究分野が該当する本学教員の研究室に受入れとなるように手配した。アフリカ5大学からの専門分野が異なる短期・長期受入学生を同一日程・プログラムで受入を実施し、招聘教員も合同で「Africa Week」を開催し、地元紙などでも報道された。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

事業実施部会に、アフリカとの連携実績のある教員が参画しており、アフリカから5名の学生を半年間受け入れる際も、適切な受け入れ体制を整えることができた。前年度（2021年度）から2022年度にかけザンビア大学に本学の学生を10カ月間派遣する際も、これまでの連携実績に基づき、円滑な派遣を実施することができた。

また、翌債予算を活用して本学の学生10名をザンビア・エジプトに短期派遣するにあたり、事前に教職員が現地を訪問し、受入体制や安全面を十分に確認した上で実施したことから、滞りなく安全にプログラムを実施することができた。

東京農業大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

本学学生が長期留学する前に、タンザニア出身研究員をチューターとした事前学習（スワヒリ語習得、生活・文化面の理解）を行い、後学期からの留学に備えた。

世界学生サミット（ISS）および国際教育プログラム（CIEP）の受入前プログラムをオンラインで実施したことで、プログラム内容の詳細説明、日本の自然環境・農業についての基本的な理解の醸成、持ち物・服装など旅行準備に必要な情報提供を行うことができ、来日後のスムーズなプログラム実施に繋げることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

北海道大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

北海道大学で行われる保全医学に関するイベントを積極的に共催し、ハイブリッド配信やオンデマンドコンテンツ化を通じて北海道大学およびザンビア大学の学生に幅広い学習機会の提供を行った。また、これらの情報は整備したWEBサイトやメーリングリストを活用し、情報提供を行った。

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

専用ウェブサイトでの発信に加え、学内誌での事業紹介、「留学WEEK」や国際交流イベントを通し、本事業の取り組みを積極的に紹介、周知することができた。ザンビア・エジプトへの短期派遣は定員10名に対し、21名もの応募があり、学生間でのアフリカへの関心の高さが窺えた。

また、キャリア・セミナーでの民間企業との交流を通じ、アフリカからの学生の日本企業に対する理解促進、関心向上につなげることができた。

○京都大学、東京外国語大学 タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

2022年8月にTICADVⅧサイドイベント「日本アフリカ大学教育交流の新地平-日本・アフリカ大学教育交流ミーティング2022-」を開催し、日本から20大学（うち新規参加10大学）、アフリカから14大学（うち新規参加4大学）、その他17団体から計119名が参加し、アフリカと日本の大学関係者及び学生など様々な参加者の間で活発な交流を行った。

⑤特記すべき成果

○秋田大学、九州大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

新型コロナウイルス感染症蔓延の最中でありながらアフリカ側学生と日本側学生の交流を積極的に後押しするプログラムを計画・実行することができた。南部アフリカ大学側の学生については、南部アフリカ地域の協力校5大学等から選抜された合計10名の学生が、秋田大学が開講する20日間の「ショートステイプログラム」にオンラインで参加した。

本プログラムは資源開発の上流から下流にいたる網羅的な専門講義とグループディスカッションとその成果の発表会から構成されており、スマートマイニング人材育成に直結する優れたプログラムを提供できた。

東京農業大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

課題解決力醸成ワークショップを、短期派遣プログラムの派遣前プログラムという位置付けでより強く打ち出し、参加者を募ったところ、短期派遣プログラム参加者16名のうち、11名がワークショップの参加経験者となり、事前学習と現場での実践的学習が直接的にリンクする流れを構築することができた。ISS、CIEPに合わせて2ヶ月間受け入れた4名のうち学部4年生であった3名は、本学教員の指導の下、更に 学びを深めることを希望し、本学独自の奨学金制度「特別留学生制度」を利用し、2023年4月から本学大学院博士前期課程に正規留学生として入学するに至っている。

⑤特記すべき成果

○京都大学、東京外国語大学 タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

人材育成プラットフォーム構築事業では、対面式の会議開催が増えた結果、質・量ともに大学間、組織間の連携を充実化することができた。特に「日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」「アフリカ実務組織・大学交流会」では、実渡航を伴う教育プログラムが実現した結果、人材育成の方策や本事業の教育効果についてより具体的な評価を受けるとともに、各組織が名刺交換をしながら交流を深める機会を提供した。

「日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」についても、TICAD8と合わせることによって、世界展開力の枠組みを超えて多数の日本・アフリカの大学から参加があり、日本とアフリカの大学から新規の参加校を取り入れるプラットフォームを拡充することができた。

⑥オンラインを活用した工夫・改善点

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

7大学で共同開講している必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用いて15回の講義ごとに小テストやレポートを課し、その採点結果とともに講義資料や課題をアフリカ側教員と共有している。また、チャット形式による質疑もアプリ上で可能である。このような教育の質保証を伴った成績評価システムにより適切にCertificateが授与される点がアフリカ側に好評であった。

○秋田大学、九州大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

語学教育である「日本語・英語語学研修」、資源学教育「バーチャルトラベリングクラス」情報学の基礎教育「資源情報学の基礎」は、e-LearningシステムであるGoocusを利用したオンデマンドのオンライン講義を提供し、各々の学生の裁量で受講を可能とした。また「日阿協働研修1」はハイブリッド形式の講義を提供し、日阿両学生が受講可能とし、日阿混合チームによるディスカッション形式の実習では各班に用意したノートパソコン・スピーカー・マイクを通して議論を深めることができた。改善点としては、e-Learningシステムを用いる際学生の履修状況管理を定期的に行う必要があることが挙げられる。

⑥オンラインを活用した工夫・改善点

東京農業大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

2022年9月に、ハイブリットで開催した第22回「食と農と環境を考える世界学生サミット（ISS）」は、各参加者が時間的な負荷なく参加できるよう時差に配慮し、プログラムをMorning SessionとEvening Sessionの2時間帯を設け、実施した。

また、サミットで使用したe-learningプラットフォームは、ケニア、タンザニアでも動作確認がされているGoocusを採用しソコイネ農業大学、ジョモ・ケニヤッタ農工大学の学生も負荷が少なく学習ができるよう配慮した。

さらに、Slackを活用し、ISS専用ワークスペースを作成し、グループ毎のチャンネルを用意したことで、オンラインであっても参加者間がスムーズにコミュニケーションを取ることができる場となり、グループ毎の準備が円滑に行われた。加えて、ISS参加者、協定校関係者への情報共有をスムーズに行うため、ISS専用のポータルサイトを立ち上げた。

交流学生数の実績

(1-1) 交流プログラムで受け入れた日本人学生数（派遣学生数）について

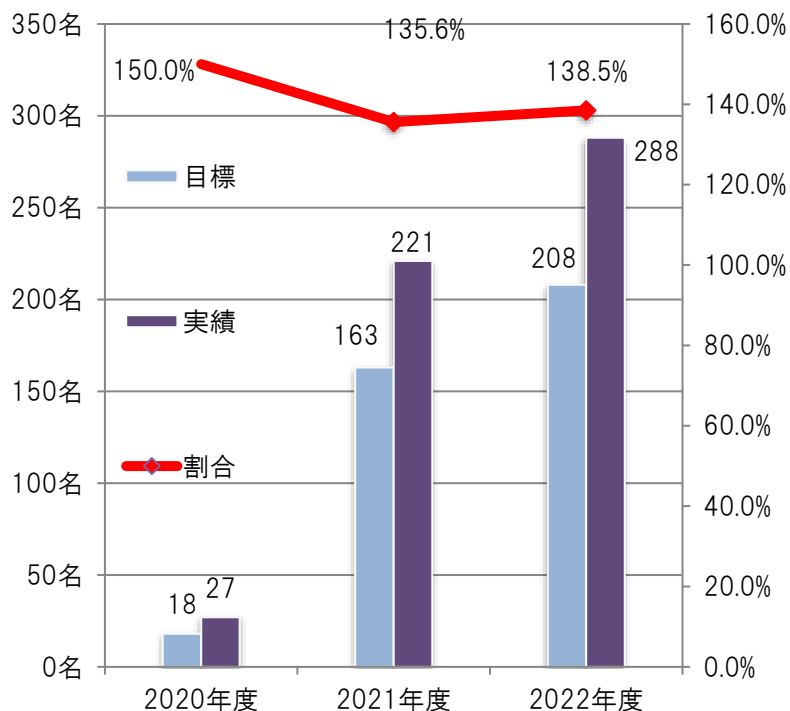
<全体の状況>

※個別派遣学生数の詳細は別表1を参照

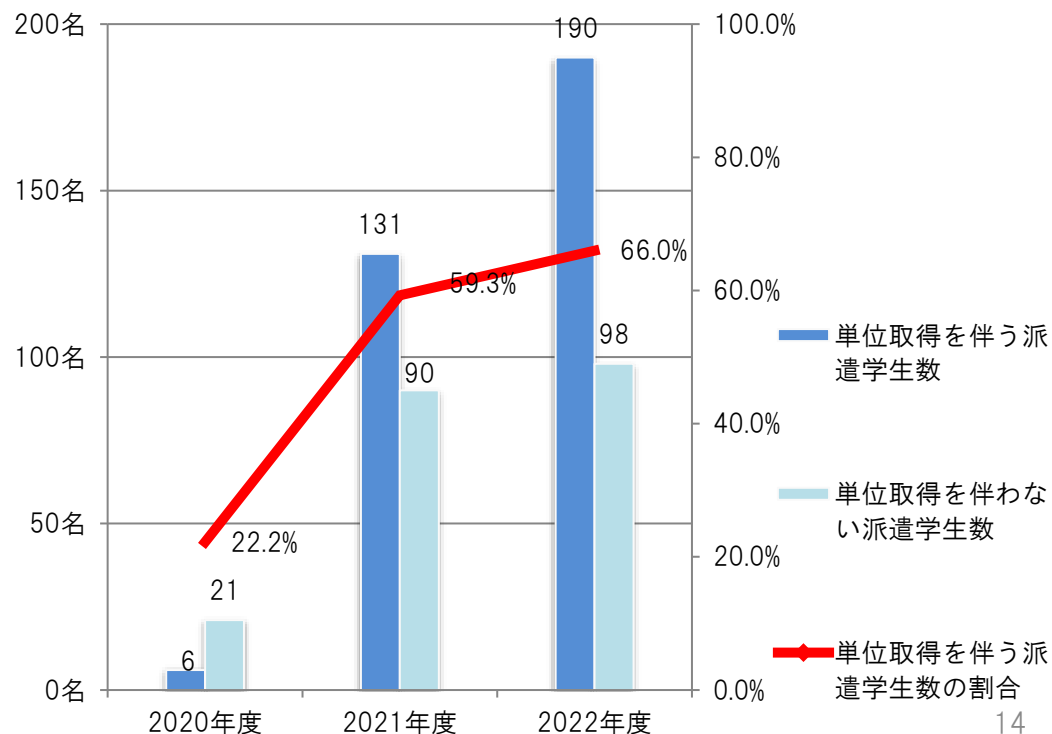
事業初年度であった2020年度は、コロナ禍の渡航制限等で厳しい状況であったが、オンライン形態への対応をはじめとする各大学の工夫等により、全体数および実績の割合が増加している。

また、単位取得に伴う派遣学生数においても、2020年度と比較して、全体数および割合も増加しており、半数以上の学生が単位取得を伴う留学を実施している。

目標に対する実績の割合（派遣）



単位取得を伴う派遣学生数



交流学生数の実績

(1-2) 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

ナイロビ大学での現地実習では、学生7～9人のグループに1名の山口大学生が加わる形式で実施され、また、実習後には各自のフィードバックを英語での発表を行っており、帰国後のTOEIC受講でスコアアップが見られるなど、語学力を向上させることができた。派遣ではナイロビ大学以外の研究機関や組織への訪問もプログラムに組み込むことによって、多面的な角度からOne Health問題を捉える視野を醸成する機会となった。

北海道大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

活動のうち2日間を学生自ら企画しカウンターパートと活動する課題探求活動に充てた。活動のテーマは野生動物管理、感染症サーベイ、貧困地域への支援、外交政策、教育活動、森林管理などについて多岐に渡り、各自の専門性と保全医学を結びつけて課題解決手法を考える機会となった。海外において「産官学」の協働プログラムに参加することで帰国後の研究活動やキャリアパスに影響を与えた点が学生から評価された。

長崎大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

本事業は、主管部局を医歯薬学総合研究科が務め、全学的なプラネタリーヘルス事業として展開されている。そのため、全学からの学生の参加を求めており、2022年の交流プログラムには、経済学、多文化社会学、情報データ科学、工学などの分野で、医歯薬系以外の学部生や大学院生も多く参加し、プラネタリーヘルスをアフリカとの交流から学ぶことができた。

交流学生数の実績

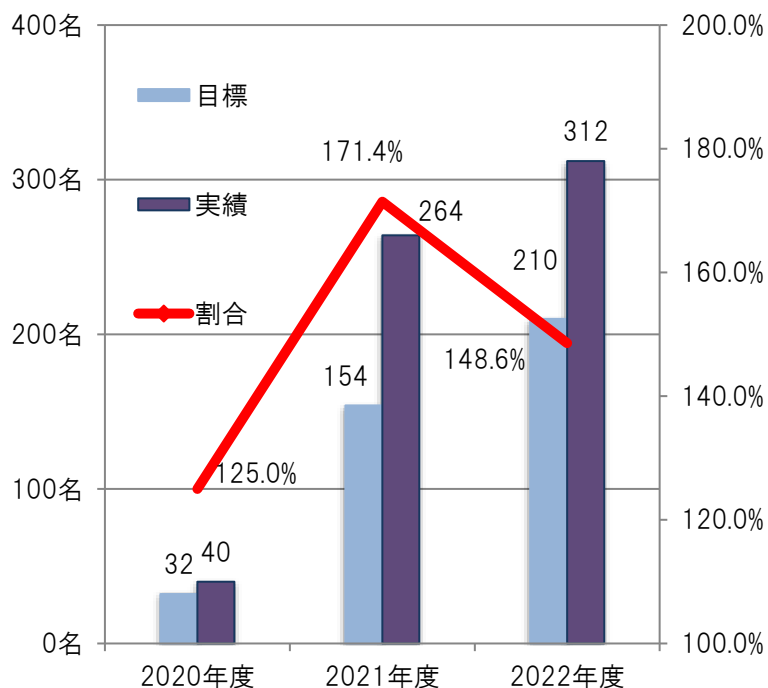
(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について

<全体の状況>

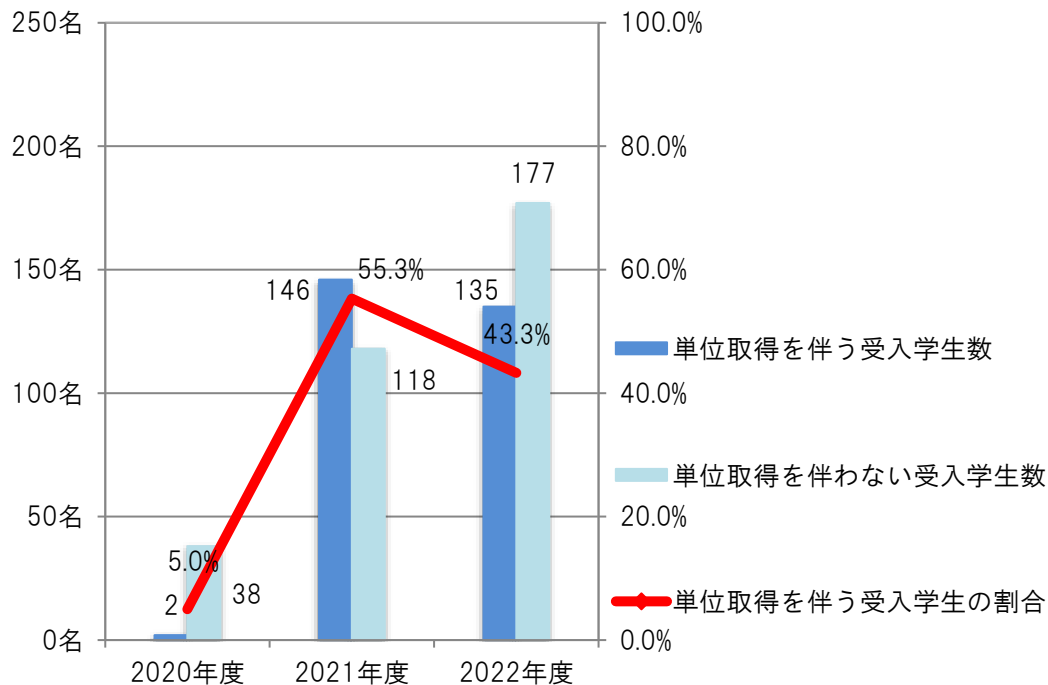
※個別派遣学生数の詳細は別表2を参照

前述のとおり、事業初年度と比較し、全体数は増加し、目標に対する実績の割合も100%を超える水準が維持されている一方で、2022年度は2021年度と比較すると、受入学生総数に占める単位取得学生の割合がやや低下傾向にある。

達成目標に対する実績の割合（受入）



単位取得を行う受入学生の割合



交流学生数の実績

(2-2) 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

ナイロビ大学生が本学滞在時に受講する「動物感染症総合実習」は学部4年生対象のもので、高病原性微生物の生態、病原機構、検出法および感染予防に関する診断・調査に必要な高度専門知識を習得することを目的としている。特に、BSL-2実験室、BSL-2動物実験室に加え、防護服を着用してBSL-3実験室を利用する体験は、参加学生にとって貴重な経験となった。英語版の実習テキストも準備しており、大学院生がチューターとして補助する体制で、共同獣医学部4年生と一緒にグループ分けされ、学生間の交流を図りながら進めることから、両学生にグローバルな感覚を身に着けるきっかけとなる有意義なものとなった。

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

5名の受入学生は全員初来日で、当初は生活面で戸惑うことも多かったが、本学の学生がサポートすることで、学生生活にもスムーズに慣れることができた。

また、来日前に2カ月間、オンラインで日本語の基礎を学んだことで、カルチャーショックを軽減化することができた。COIL型教育では、原則、グループ毎に1名のTAを起用することで、多様な学生がスムーズにチームとして協働学習し易い環境を作った。

(2-2) 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

長崎大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

実渡航、オンラインいずれのプログラムも達成目標を上回る学生を受入れることができ、ケニアから8名の長期交流プログラム参加学生を6か月間、複数の部局（多文化社会学研究科、経済研究科、熱帯医学・グローバルヘルス研究科、水産・環境科学研究科、医歯薬総合研究科）に受け入れ、長崎大学におけるプラネタリーヘルスを基盤として、専門教育を施すことができた。

今後は、ケニア側連携大学・機関における単位認定の条件の確認と単位付与について協議をさらに進める。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2020年度選定)

(単位:名)

取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)																	
	目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数											
				(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満		3ヶ月以上			
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
タイプA①	宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2021	7	45	642.9	7	45	7	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2022	13	66	507.7	13	66	12	65	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
			2023	21	0	0.0	21	0	18	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
			2024	21	0	0.0	21	0	18	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	62	111	179.0	62	111	55	110	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0
タイプA①	山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2021	16	19	118.8	4	8	4	8	0	0	0	0	12	11	10	11	2	0	0
			2022	16	28	175.0	4	11	4	11	0	0	0	0	12	17	10	17	2	0	0
			2023	16	0	0.0	4	0	4	0	0	0	0	12	0	10	0	2	0	0	
			2024	16	0	0.0	4	0	4	0	0	0	0	12	0	10	0	2	0	0	
			計	64	47	73.4	16	19	16	19	0	0	0	0	48	28	40	28	8	0	0
合計			126	158	125.4	78	130	71	129	0	0	7	1	48	28	40	28	8	0	0	
タイプA②	北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	4	15	375.0	0	0	0	0	0	0	0	4	15	4	15	0	0	0	
			2021	18	18	100.0	8	12	8	12	0	0	0	0	10	6	10	6	0	0	0
			2022	18	19	105.6	8	10	8	8	0	2	0	0	10	9	10	9	0	0	0
			2023	18	0	0.0	8	0	8	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	
			2024	18	0	0.0	8	0	8	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	
			計	76	52	68.4	32	22	32	20	0	2	0	0	44	30	44	30	0	0	0
タイプA②	○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2021	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2022	40	21	52.5	40	21	10	21	20	0	10	0	0	0	0	0	0	0	
			2023	65	0	0.0	65	0	10	0	35	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
			2024	65	0	0.0	65	0	10	0	35	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
			計	180	31	17.2	180	31	40	31	90	0	50	0	0	0	0	0	0	0	
タイプA②	広島大学	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2021	42	28	66.7	42	28	10	0	26	27	6	1	0	0	0	0	0		
			2022	42	21	50.0	42	21	10	10	26	11	6	0	0	0	0	0	0	0	
			2023	43	0	0.0	43	0	10	0	26	0	7	0	0	0	0	0	0		
			2024	43	0	0.0	43	0	10	0	26	0	7	0	0	0	0	0	0		
			計	170	49	28.8	170	49	40	10	104	38	26	1	0	0	0	0	0		
タイプA②	長崎大学	ブラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	6	0	6	0	0	0	4	6	4	6	0	0		
			2021	7	22	314.3	3	15	0	12	0	0	3	3	4	7	4	4	0		
			2022	12	21	175.0	8	10	5	5	0	4	3	1	4	11	4	11	0		
			2023	12	0	0.0	8	0	5	0	0	0	3	0	4	0	4	0	0		
			2024	12	0	0.0	8	0	5	0	0	0	3	0	4	0	4	0	0		
			計	47	55	117.0	27	31	15	23	0	4	12	4	20	24	20	21	0		
タイプA②	東京農業大学	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0		
			2021	51	41	80.4	17	7	15	7	0	0	2	0	34	34	0	34	34		
			2022	51	64	125.5	17	39	15	36	0	0	2	3	34	25	0	25	34		
			2023	51	0	0.0	17	0	15	0	0	0	2	0	34	0	0	34	0		
			2024	51	0	0.0	17	0	15	0	0	0	2	0	34	0	0	34	0		
			計	154	3	1.9	8	3	60	43	0	0	8	3	146	0	0	59	146		
合計			627	190	30.3	417	136	187	127	194	44	96	8	210	54	64	110				
タイプB	○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2021	12	38	316.7	3	6	0	5	0	0	3	1	9	32	0	20			
			2022	16	48	300.0	3	12	0	7	0	0	3	5	13	36	0	0			
			2023	17	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	12	0	0				
			2024	17	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	12	0	0				
			計	62	86	138.7	16	18	0	12	0	0	16	6	46	68	0	20			
合計			62	86	138.7	16	18	0	12	0	0	16	6	46	68	0					
総計			815	434	53.3	495	284	258	268	194	44	103	15	258	150	104	158				

別表2:プログラムごとの受入学生数(2020年度選定)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)															
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数									
						(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
タイプA① 宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2021	7	102	1457.1	7	102	7	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2022	13	74	569.2	13	74	12	73	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		2023	21	0	0.0	21	0	18		0		3		0	0	0		0		0	
		2024	21	0	0.0	21	0	18		0		3		0	0	0		0		0	
		計	62	176	283.9	62	176	55	175	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	
山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	16	8	50.0	4	8	4	8	0	0	0	0	12	0	10	0	2	0	0	
		2022	16	9	56.3	4	8	4	8	0	0	0	0	12	1	10	1	2	0	0	
		2023	16	0	0.0	4	0	4		0		0		12	0	10		2		0	
		2024	16	0	0.0	4	0	4		0		0		12	0	10		2		0	
		計	64	17	26.6	16	16	16	16	0	0	0	0	48	1	40	1	8	0	0	
合計			126	193	153.2	78	192	71	191	0	0	7	1	48	1	40	1	8	0	0	
タイプA 北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0	0	0	
		2021	14	9	64.3	4	7	4	7	0	0	0	10	2	10	2	0	0	0	0	
		2022	14	27	192.9	4	8	4	4	0	4	0	0	10	19	10	16	0	3	0	0
		2023	14	0	0.0	4	0	4		0		0		10	0	10		0		0	
		2024	14	0	0.0	4	0	4		0		0		10	0	10		0		0	
		計	64	49	76.6	16	15	16	11	0	4	0	0	48	34	48	31	0	3	0	
○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	10	11	110.0	10	11	10	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2022	50	19	38.0	50	19	10	19	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2023	60	0	0.0	60	0	10		30		20		0	0	0		0		0	
		2024	60	0	0.0	60	0	10		30		20		0	0	0		0		0	
		計	180	30	16.7	180	30	40	30	80	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	
タイプA 広島大学	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0	0	0	
		2021	56	59	105.4	8	4	0	0	0	0	8	4	48	55	8	0	40	55	0	
		2022	56	86	153.6	8	5	0	0	0	0	8	5	48	81	8	0	40	81	0	
		2023	62	0	0.0	9	0	0		0		9		53	0	8		45		0	
		2024	62	0	0.0	9	0	0		0		9		53	0	8		45		0	
		計	244	158	64.8	34	9	0	0	0	0	34	9	210	149	40	13	170	136	0	
長崎大学	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	4	12	0	0	0	0	
		2021	8	21	262.5	4	0	0	0	0	0	4	0	4	21	4	21	0	0	0	
		2022	12	20	166.7	8	0	4	0	0	0	4	0	4	20	4	12	0	0	0	
		2023	12	0	0.0	8	0	4		0		4		4	0	4		0		0	
		2024	12	0	0.0	8	0	4		0		4		4	0	4		0		0	
		計	48	53	110.4	28	0	12	0	0	0	16	0	20	53	20	45	0	0	0	
東京農業大学	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	
		2021	33	43	130.3	11	12	7	12	0	0	4	0	22	31	0	31	22	0	0	
		2022	33	51	154.5	11	15	7	8	0	4	4	3	22	36	0	36	22	0	0	
		2023	33	0	0.0	11	0	7		0		4		22	0	0		22		0	
		2024	33	0	0.0	11	0	7		0		4		22	0	0		22		0	
		計	114	7	6.1	16	7	28	20	0	4	16	3	98	0	0	67	98	0	0	
合計			650	297	45.7	274	61	96	61	80	8	126	12	376	236	108	156	268	139	0	
タイプB ○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	2	2	100.0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	10	11	110.0	3	2	0	0	0	0	3	2	7	9	0	0	7	9	0	
		2022	16	26	162.5	4	6	0	0	0	0	4	6	12	20	0	7	12	13	0	
		2023	17	0	0.0	4	0	0		0		4		13	0	0		13		0	
		2024	17	0	0.0	4	0	0		0		4		13	0	0		13		0	
		計	62	39	62.9	17	10	0	0	0	0	17	10	45	29	0	7	45	22	0	
合計			62	39	62.9	17	10	0	0	0	17	10	45	29	0	7	45	22	0		
総計			838	529	63.1	369	263	167	252	80	8	150	23	469	266	148	164	321	161	0	